宮田大

「チェロ」

Dai Miyata

Interview

ロストロポーヴィチ国際チェロコンクール優勝から11年。

国際派チェリストとして活躍し続ける若き逸材の素顔とは？

満を持して挑むロシア・プログラムの魅力も語ってもらった。

子ども時代～ヴァイオリンからチェロへ

母がヴァイオリン教師で、2歳からヴァイオリンを始めました。落ち着きがなく「座って練習しなさい」と怒られたりして、父が教えるチェロに変わりました。「1回ちゃんと弾けたら飴をあげる」という感じで、チンパンジーの餌づけのようだったと思います（笑）。机の上に椅子を置いて「今日は宮田大リサイタルだね」とか、庭に出て「青空の下で演奏会だね」なんて言って気分転換させながらレッスンしてくれ、両親からは音楽の楽しさを教えてもらいました。

小澤征爾さんとの想い出

高校生のとき、桐朋学園創立50周年記念コンサートで小澤征爾さんと初めて共演させていただきました。サントリーホールで、OB・OGのオーケストラとハイドンのチェロ協奏曲を演奏し、小澤さんが溌剌と指揮してくださった想い出があります。大舞台でトップクラスの演奏に触れ、「自分もこんなふうになりたい」とプロを目指すようになりました。

尊敬する恩師の教え

倉田澄子先生には、自分の音楽性の大部分を占めるものを教えていただきました。弓の持ち方、脱力、引力に逆らわない奏法など。「息の長い演奏家に」といつも言ってくださり、怪我をしないよう、気持ちが乗る演奏方法を教えてくれました。いまでも連絡を取りますが、声を聞くだけで初心に戻れるような先生です。

留学時代のヘルメルソン先生は、最初のページを弾くと「次は違う感情で」「内に込めた気持ちで」「誰も見ていないから自由に！」などと言われるんです。弾き終わると「全然違う演奏ができたでしょ？ 音楽を作る〈make〉のではなく感じて〈feel〉演奏しなくてはいけないよ！」と言われました。そのときに感じたことを大切にするという、とても重要なことを教えてもらいました。

コンクール優勝から11年～現在の心境

ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールで優勝した翌日に、ドヴォルザークのチェロ協奏曲をパリ管と演奏しました。演奏後、涙を流す母の姿がちらっと客席に見えて、もらい泣きしそうになりました。その時のことを思い出すと、いまでも感極まる気持ちになります。その後は、以前はアマデウス・カルテットのチェリストが弾いていたそうですが、一番心掛けているのは歌うことです。音楽には言葉がないので、音で歌いどう感情を伝えるか、常に挑戦しています。この名器を通すと、より一層奥底にある感情が伝えられるような気がします。

今回のロシア・プログラム

念願叶ってのプログラムです！ 昔からロシアの曲が大好きで、小学6年のときストラヴィンスキーの「春の祭典」「火の鳥」など父が持っていた楽譜を借りて遊んでいました。ラフマニノフのソナタは涙が出るくらい好きな曲です。厳しいソ連の時代に書かれていますが、チェロ・パートは幸福度MAXに朗々としていて、現代とは違った幸せが描かれているように感じます。ピアノ・パートはまるでコンチェルトのような聴きどころがあるので、ジュリアンのピアノも楽しんでいただけると思います。ロシアのジャズピアニストであるカプースチンも大好きな作曲家です。縦ノリ・横ノリ、スイングして気持ちのいい曲なので、身構えずに聴きにいらしてくださいね。ロシア・プログラム＝いまの宮田大の魅力が聴ける！ と思っていただけたら嬉しいです。

フランクフルトのコンサートで巨匠マイスキーと

ドイツ留学時代。ヘルメルソン先生と

様々なコラボレーションも刺激を与えてくれる
写真はギタリストの大萩康司と

10年以上共演を続ける盟友ジュリアンと

海中の世界も音楽と同様「一期一会」という

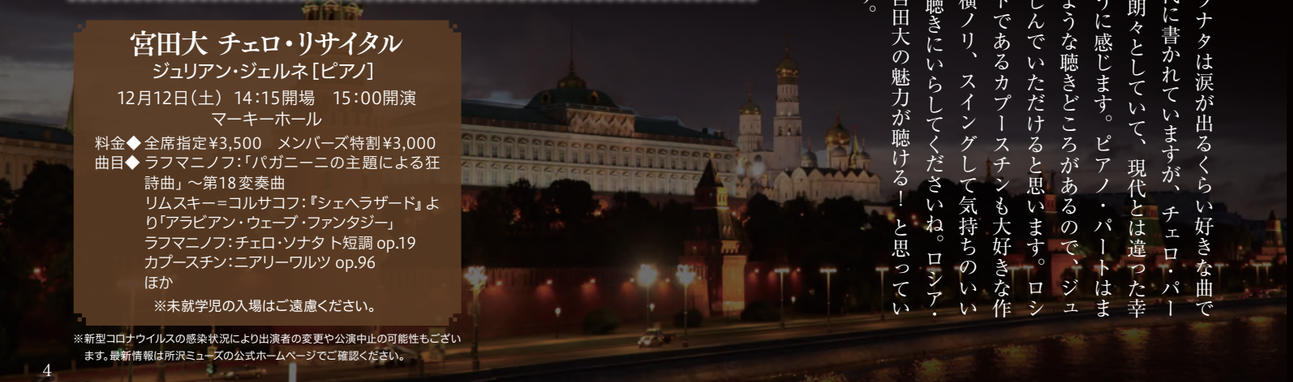
小澤征爾とは2012年にも共演した

2018

2018年所沢ミューズでの無伴奏リサイタル

1991

子どもの頃、自宅の机の上でリサイタル



宮田大 チェロ・リサイタル

ジュリアン・ジェルネ［ピアノ］

12月12日（土） 14：15開場　15：00開演

マーキーホール

料金◆ 全席指定¥3,500　メンバーズ特割¥3,000

曲目◆ ラフマニノフ：「パガニーニの主題による狂詩曲」～第18変奏曲

リムスキー＝コルサコフ：『シェヘラザード』より「アラビアン・ウェーブ・ファンタジー」

ラフマニノフ：チェロ・ソナタ ト短調 op.19

カプースチン：ニアリーワルツ op.96

ほか

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※新型コロナウイルスの感染状況により出演者の変更や公演中止の可能性もございます。最新情報は所沢ミューズの公式ホームページでご確認ください。